

多摩都市モノレール新駅周辺の将来像を考えるワークショップの第1回目を開催しました。当日は真夏を思わせるようなお天気の中、朝早い時間にも関わらず多くの参加者があり、活発な意見交換が行われました。ワークショップは今回を含め3回開催を予定しており、終了後には報告書としてとりまとめ、公表します。

◇第1回:中部地区会館(武蔵村山市役所)401大集会室
2023年6月17日(土)9:30~11:30



● イントロダクション

市より、多摩都市モノレールの延伸計画及び延伸に向けた市の取組、市民ワークショップ開催の趣旨について説明しました。

● モノレール延伸を見据えたまちづくりについて

ファシリテーターである日本大学大沢教授による「モノレール延伸を見据えたまちづくりについて」と題した講義があり、様々な視点から、都市と交通の関係などについて、事例を交えたお話がありました。



● 意見交換 **第1回のテーマ：地域の課題と魅力**

3地域(東地域・中央地域・西地域)でグループになり、地域ごとに自己紹介の時間を設け、お名前と住んでいる場所やワークショップに参加した経緯などを発表していただきました。

その後、市全体や地域の「魅力」、「課題・気になるところ」、「こんなことができたら・あったらいい」ということについて各自意見を付箋(魅力:青、課題:ピンク、希望:黄色)に書き込み、意見交換を行いました。



● 発表

地域ごとに意見のまとめを発表しました。全地域通じて、自然や緑、農地が多いことが魅力である反面、移動がしづらい、交流が少ないなどの意見が多くありました。駅ができることにより、魅力を活かした取組みや交流ができる場づくりを望む声が多くありました。



◇第2回のテーマ:まちづくりのテーマ・各駅周辺の将来像について

各地域の主な意見



- 東地域
- 中央地域
- 西地域

東地域

魅力

- 空気が良い、水がおいしい
- 野鳥が多い、緑が多く里山がある
- 特産品がある(みかん・大島紬)
- 医療系の施設が多い
- 商店街があって楽しい
- 公園が多い

など

課題

- 道路や歩道が狭く、移動しにくい
- 畑・果樹園を残してほしい
- 人とのつながりが希薄
- 交流の場がない
- 飲食店が少ない

など

こんなことができれば・あったらいい

- 農地や農を活用した場や取り組みなど
- 駅前に気軽に立ち寄ることができる交流空間
- コミュニティガーデンや農を活用した交流できる場
- 里山の魅力を伝えて外国人を呼び込む
- 多世代が活躍できる場
- 大学や高校との連携
- 送り迎えができるスペース



中央地域

魅力

- イオンがある、買い物が便利
- 緑が多く自然が豊か
- 田畑、果樹園が多い
- 野山北公園がある
- トンネルがある、トンネルが涼しい
- 駅前広場ができる

など

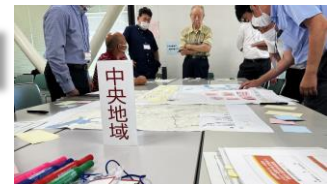
課題

- 歩道が狭い、渋滞が多い
- 人が交流しにくい
- 店舗へのアクセスが悪い
- 子どもの遊び場が少ない
- 北側は店が少ない

など

こんなことができれば・あったらいい

- 駅前にイベントやマルシェなどができる交流空間
- 駅周辺に市民が楽しめる公園ができる
- 子育て支援や起業支援、交流ができる施設
- 生産緑地や農地を活用した場づくりや取り組み
- コンビニ、交番、図書館など
- トンネルを活かしたイベント
- ウォーキング途中で立ち寄れるカフェ



西地域

魅力

- 緑が多く自然が豊か
- みかん畑とそこからの景色
- 隠れ家的なお店が多い
- 広大な農地
- 魅力的な散歩道が多い

など

課題

- 交通が不便な地域
- 歩道が狭い
- 公共施設が古い、少ない
- かたくりの湯が閉館
- 閉鎖的な地域
- 交流できる場がない

など

こんなことができれば・あったらいい

- 駅前広場をつくり、一息つける場を設ける
- 残堀川の活用
- 多世代交流ができる場
- 多様な人々が集える拠点
- 多摩開墾を活用した農あるまちづくり
- 子ども達のサードプレイス
- 文化施設(博物館や科学館等)
- 5駅それぞれ特色のある駅を目指す

